

2017年11月

在コスタリカ日本大使館 経済班

※出典：コスタリカ中央銀行、財務省、貿易省(COMEX) 及び貿易振興機構(PROCOMER) (8-10月分数値)。主な出来事については当地新聞記事¹⁾による。

1 主要経済指標

	2016年	2017年		
		8月	9月	10月
累積輸出総額 FOB(100万ドル)	9,197.4	7,104.9	8,003.4	n.a.
累積輸入総額 CIF(100万ドル)	15,324.7	10,353.4	11,670.2	n.a.
貿易収支(100万ドル)	▲ 5,410.5	▲ 3,248.5	▲ 3,666.8	n.a.
財政収支対 GDP 比(%)	▲ 5.22	▲ 3.2	n.a.	n.a.
消費者物価指数(CPI: 2015年6月を100とする)	99.87	100.99	101.2	101.8
為替 (通貨はコロン・1米ドルあたり銀行買値・月末値)	539.14	571.91	568.33	566.65
政策金利(%)	1.75(年末値)	4.50	4.50	4.50
基本預金金利(%)	4.45(年末値)	5.95	5.85	5.90
外貨準備高(100万ドル)	7,573.8	6,868.5	6,898.1	6,847.5

2 経済全般・貿易・財政

●輸出セクターは、相変わらず好調であり10月までの累積輸出額・対前年同期比は8.6%増であった。2017年の輸出総額は昨年を上回るものと見られている。しかしながら、個人消費の伸びが8月で2.9%と2010年以来の最低の伸び率であり、企業収益が上がらず経済成長が昨年よりも減速しているため、今年度の経済成長率は昨年よりも下がる見通しである。今後の経済成長について、世界銀行の予測値では2017年3.9%、2018年3.8%、国際通貨基金(IMF)の予測値では2017年3.8%、2018年3.8%、コスタリカ中央銀行の予測値では2017年3.8%、2018年4.1%である。メディアは中銀の楽観的見通しに懐疑的であり、財政改革がなければ2018年の財政赤字対GDP比は6.6%になり、ラテンアメリカのワースト順位をさらに上げることになる見られている。

●コスタリカにとって最も主要なFTAは米国との中米自由貿易協定(CAFTA-DR)である。同協定は、2009年より発効しているが、協定批准を巡り、2007年にコスタリカでは国を2部する大論争が起きた。結局協定の批准は国民投票に委ねられ、同協定は批准されたが、賛成票51.65%と反対票に大差はなかった。同協定批准のためにここまで国内論争が巻き起

¹⁾ ラ・ナシオン紙、ラ・レプブリカ紙、エル・フィナンシエロ紙

こった国はコスタリカだけである。ナショナル大学(UNA)は、2007年とその10年後の2017年に、世論調査として市民に対し同協定についての意見を求めるアンケートを実施したところ、2007年は51%が賛成、48%が反対であったが、2017年は44%が賛成、44%が反対という結果であった。これは、農業セクターなどFTAでとくに影響を受ける人々の反対意見が依然根強いことを示唆するが、その一方、このFTAによりコスタリカでは長年国営企業の独占であった通信事業や保険が自由化され、サービス向上や価格競争が生まれ市民生活が改善されたことや、米国の企業誘致、投資拡大などの期待された以上の効果も生んでいる。

コスタリカは、現在ほかにも欧州や近隣諸国など複数の国々や地域とFTAを締結しているが、すべてのFTAが当初の期待どおり効果的に活用されているわけではない。中国とのFTAは近年一方的に輸入超過であり、貿易赤字が進行しているだけで中国の投資も伸びていない。一方で、例えば、チリとのFTAは2002年に発効したが、それ以来輸出入は年平均でそれぞれ13%、10%の増加、チリへの輸出企業は31から94に増えるなど、チリ、パナマ、カリブ共同体(CAROCOM)とのFTAについては明確なインパクトが確認されている。

3 その他の経済ニュース（出典：当地報道など）

●トヨタ自動車代理店 Purdy Motor 60周年記念

コスタリカにおけるトヨタ自動車の正規販売代理店 Purdy Motor が開業60周年を迎え、ベレン市で記念式典が開催された。同社は、会場で1,500台の同一車種を一か所に駐車するというギネス世界記録に挑戦した。これは、駐車されたトヨタ車によってのトヨタ自動車のエンブレムを形作ることによって無事達成された。トヨタ車はコスタリカの車両販売で近年売り上げナンバーワンを続けている。

●密輸品やコピー商品の流通状況

コスタリカ商業会議所によれば、コスタリカで流通している主な密輸品やコピー商品はたばこや葉巻、医薬品、アルコール、缶詰などの食品、金属機器などであるが年間被害総額は1億ドルにのぼるといふ。それらの商品はそのほとんどが正規の商品ではなく、欠陥ありきの商品であるが、値段が正規品に比べて廉価であるため、正規品でない知りながら購入する人々も後を絶たない。例えば、サッカー・コスタリカ代表のユニフォームの正規品価格は80ドルほどであるが、密輸品やコピー商品は3分の1程度の価格であるという。これらの商品は、実際のところ商品に何の保証もなく何も知らずに購入する人も多く、コンピューター製品に至ってはセキュリティーの欠落のためハッカーの標的になりやすいなどの実害がある。中米市場・消費者調査会(UNIMER)の調査によれば、53%のコスタリカ人が密輸品やコピー商品と知りながらその商品を購入したことがあるという。実際、サッカースタジアムでコピー商品のユニフォームを着て応援するサポーターの光景は日常的で

ある。当局は、昨年密輸対策法が成立したことで、現在取り締まりに力を入れている。

●コスタリカにおけるメキシコ企業

コスタリカで展開するメキシコ企業は、ビンゴ（パン製品）、クラーロ（通信会社）、ウォルマート、ララ（乳製品）、フォルタレサ（セメント）など 37 社が展開しているが、これらメキシコ企業は、コスタリカで 24,000 人の直接雇用、56,000 人の間接雇用を創出している。同国のコスタリカへの近年の毎月平均投資額は 1 億ドルであり、これは米国の 9.48 億ドルに次ぐ規模であり、メキシコ企業の進出はコスタリカ経済にとって重要視されている。しかしながら、メキシコの投資家が米国トランプ政権の政策をうかがい投資先に慎重になっていることや、**Doing Business** においてコスタリカが「起業しやすさ」の項目で 137 か国中 102 位にランキングされたことなどの 2 つの好ましくない要因により、コスタリカ当局は、メキシコ企業の今後の進出の伸びに懸念を示している。また、ほかにもインフラの欠陥や時代に見合わない法制などの要因が、今後のコスタリカにおける企業展開の妨げになる可能性が指摘されている。

●高まる政治不信感

ラ・レプブリカ紙が 529 名を対象に、最近 30 年間中米各国で起こった汚職事件を参照しながら、「中米で最も腐敗した国はどこか」というアンケートを実施したところ、1 位がグアテマラで 27%、2 位がコスタリカで 18%、3 位がニカラグアで 15%、4 位がホンジュラスとエルサルバドルで 7%、6 位がパナマで 2%であった。なお、米国ギャラップ社がコスタリカの一般市民に対して、現在の社会的な不満は何かというアンケート調査を実施した結果、失業が 25%と最多、次いで 23%が汚職、高い生活費が 19%であった。ここ数か月間ずっと紙面を賑わせている中国セメント汚職事件を受け、コスタリカ人の政治不信感にはにわか高まっており、長年の問題であるインフラ改善については、現在はあまり人々の関心の対象となっていない。

●コスタリカの国際的人材評価

世界経済フォーラムが 130 か国を対象に 2017 年のヒューマン・キャピタル力をランキングしたところ、コスタリカは 62.8 点（0～100 点評価）であり、61 位であった。ラテンアメリカ内では第 5 位となっているが、中米内ではパナマに 1 位の座を譲っている。このランキングでは、労働者の教育レベルや能力、雇用状況などが評価される。ラテンアメリカ第 1 位はアルゼンチンの 64.32 点であり、同国の全体順位は 52 位である。

●中米最低の国際的評価である道路インフラ

同じく、世界経済フォーラムによる国際競争力ランキング 2017-2018 年が発表されたところ、コスタリカは全体順位で 47 位とラテンアメリカで第 2 位の評価を得た。しかしなが

ら、道路インフラ項目については 137 か国中 123 位にランキングされた。コスタリカは、この項目で 1~7 点中 2.6 点を得たが、これはラテンアメリカではワースト 3 に入り、コスタリカより低い評価が下されたのはパラグアイとハイチだけである。また、この数値は中米ではワーストであり、中米 5 位の評価のグアテマラでも 3.1 点の評価であった。ラテンアメリカの道路インフラの評価はチリ(全体順位 24 位)、中北一はパナマ(全体順位 49 位)であった。

●コスタリカ人の労働時間

OECD が加盟国(コスタリカは加盟申請中)の 2016 年の年間平均労働時間を発表したところ、コスタリカは 2,212 時間であり 38 か国中 2 位であった。第 1 位はメキシコで 2,255 時間であったが、ラテンアメリカやアジア諸国の労働時間は世界的に見ても長めであり、ドイツの 1,363 時間など依然西欧諸国との隔たりは大きい。なお、コスタリカの年間祝日日数は 10 日である。

●残留農薬を有する野菜・果物の割合

国家植物検疫サービス(SFE)に提出された報告書によれば、コスタリカ各県で生産されたレタス、トマト、メロン、すいか、パイナップルなどのサンプルから検出された残留基準を超える農薬を有する農産物の割合は、2013 年の 15.3%から 2016 年は 32%に倍増したという。マルコ・ビニシオ SFE 局長は、この理由は農薬散布が増えたのではなく、これまでのコスタリカ国内の残留基準を改め、新たに国際食品規格委員会(Codex)やアメリカ合衆国環境保護庁(EPA)などの指標を用いるようになったためであると説明した。近年の異常気象のせいでも多くの農家が農薬の使用を余儀なくされているが、実際スーパーの野菜は農薬まみれのものが売られている可能性がある的意识している人々が多い。

●KLM 空港の就航開始

10 月 31 日からオランダの KLM 便が運航を開始した。この便は、オランダのアムステルダム空港とコスタリカのフアン・サンタマリア空港間を結ぶものであり、本年 11 月から明年 3 月までの欧州の冬期期間中、火曜日から金曜日まで毎日運航される。

(了)